

一勝地小だより

第8号

R3. 12. 2発行

文責：梅本 和高

<https://es.higo.ed.jp/ishouchi/>



思いやりについて考えよう

私達は、よく子供たちに「思いやりのある人になりましょう。」と話します。よく使う言葉ですが、具体的に考えてもらおうと集会で話をしました。

まず、ホワイトボードに好きな大きさの○を各学年の子供たちにかいてもらいました。最初は、大きな○をかくことができていましたが、だんだんくスペースがなくなっていき、高学年の子供たちは困っていました。

この後、私からは、「ホワイトボードの大きさは決まっています。みんなが○をかくと分かっていたら、大きさを考えるよね。」と話しました。そして、「それが、思いやりなんだよ。」と話しました。私は、自分の行為が、まわりの人にどんな影響を与えるかを考えることが思いやりだと考えます。

最後に「思い」とは、相手を大切にすること。「やる」とは、相手にその思いを渡すことだと話して、児童集会を終わりました。

廊下を歩くとき、「自分のしゃべり声が、他のクラスの人の迷惑になっていないかな」や、「この言葉遣いは、相手が嫌な気持ちにならないかな」など、学校生活の中でもう一步、思いやりについて考えてくれればと思います。

みんなの心が一つになった学習成果発表会

11月21日に行いました学習成果発表会では、ご多用な中、たくさんの皆様に参加いただき有難うございました。子供たちの発表はいかがだったでしょうか。

子供たちは、これまで学習した成果を、ミュージカルや劇、合奏などで表現しました。

練習を始めた時は、大きな声が出なかったり、セリフがなかなか覚えられなかったりしていましたが、本番では、緊張しながらも、自信を持って大きな声で立派に発表することができました。子供たち自身が、できるようになったことを実感できたのではないのでしょうか。「やればできる」という、この経験を今後の学習に活かしてほしいです。

また、最後は、見に来られた保護者の皆様、地域の皆様と一緒に、球磨川音頭を踊ることができて本当に良かったです。私も一緒に踊りながら、様々な思いが頭を巡りました。本当にありがとうございました。

また、学習成果発表会の前の収穫祭でいただいたおにぎり、さつま汁は、とてもおいしかったです。準備をさせていただきました保護者の皆様、JA女性部の皆様に、重ねてお礼申し上げます。



芸術の秋、スポーツの秋～様々な講演会がありました～

11月は、様々な団体から支援をいただきました。日頃、触れることができない本物の芸術の鑑賞やアスリートからのアドバイスなど、貴重な経験をすることができました。

心をつなぐキャッチボールプロジェクト



サントリーの被災支援の一環として、プロ野球OB皆さんに来ていただきました。

キャッチボールのデモンストレーションを見せてもらった後、子供たちは、走り方やボールの握り方、投げ方等を教えてもらいました。最後は、講師の皆さんと一緒にキャッチボールを行いました。

里帰り講話



東京でソフトウェア開発を行われているアステリア株式会社代表取締役社長／CEOの平野洋一郎様に講話をしていただきました。

平野様からは、「デコポンば目指そう」という演題で、話をしていただきました。

デコポンは、デコの部分が特長であり、果実の部分は基本である。基本を大切にしながら、自分の良さも発揮してほしいと話されていました。

教育会館寄席



寄席では、落語家の師匠から、落語や寄席の歴史や技術について分かりやすく説明していただきました。

三味線や笛、太鼓のお囃子、和傘での芸、落語を見たり、聞いたりしながら、子供たちは、大きな声で楽しそうに笑っていました。

子供たちのすこやかな育ちと学びのために「困った子」は、「困っている子」

子供たちの中の5～8%が、コミュニケーションを苦手としているという報告があります。なぜでしょう。知能が劣っているから苦手なのではなく、コミュニケーションのルールが理解しづらいのです。ルールからはずれることが多いため、しかられたり、いじめられたりすることが多く、自分に自信がなくなったり、相手を攻撃してしまったりするようになってしまっていることがあります。時として、周りからは問題行動をとる「困った子」に見えても、一番困っているのは、適切な行動がとれないでいる本人なのです。

思いが子供に届くように、私たち大人は伝え方を磨く必要があります。

- 具体的に伝える。
- 簡潔に話す。
- 褒めるときは褒め、しかるときはしかり、褒めているのか、しかっているのか分からないことは避ける。